

1. 年代別の回答状況

今回の調査では、年代別の回答状況の違いが、集計結果に統計上の「ひずみ」を生じさせている場合もある。そのため、各設問の集計結果を見る前に、年代別の回答状況について説明しておかねばならない。

- ＊ 各年代の対象者数の割合は、府中町の住民基本台帳(平成14年6月3日現在)における年代別の人口構成比(外国人を除く)と照らし合わせてみると、ほぼ町全体の年齢別人口構成を反映したものとなっている(表1参照)。男女比についても、投票当日の有権者数の割合を反映しており、無作為抽出の作業には問題がなかったと言える。

表1 調査対象者の年代別構成比

		20歳以上の 住民基本台帳人口 平成14年6月3日現在)		調査対象者		差(a)-(b)
総人口		人数	構成比 (a)	人数	構成比 (b) (抽出率)	
50,476		38,686	-	1,997	5.2%	-
年代別	20代	6,375	16.5%	327	16.4%	0.1%
	30代	7,937	20.5%	444	22.2%	-1.7%
	40代	6,620	17.1%	300	15.0%	2.1%
	50代	7,388	19.1%	422	21.1%	-2.0%
	60代	5,458	14.1%	271	13.6%	0.5%
	70歳以上	4,908	12.7%	233	11.7%	1.0%
性別	住民投票の当日有権者					
	男性	18,480	48.7%	983	49.2%	-0.5%
	女性	19,480	51.3%	1,014	50.8%	0.5%
	計	37,960	-	1,997	(抽出率) 5.3%	-

＊ 年代ごとに回答率を見ると、若い層の回答がやや少ない結果となった（図1参照）。ただ、若い層では住民投票に対する関心も相対的に低く、加えて郵送調査の場合、調査そのものへの関心度も一般的に低いため、若い人の回答率は、このように低くなってしまうのが普通である（「社会調査へのアプローチ [大谷信介編著]」などを参照）。したがって、各年代の回答者数の割合を見ると、どの年代でも、町の実際の人口構成比とはやや乖離している（表2参照）。男女別で見ても、女性の回答がやや多かったため、やはり同様に乖離が見られる。

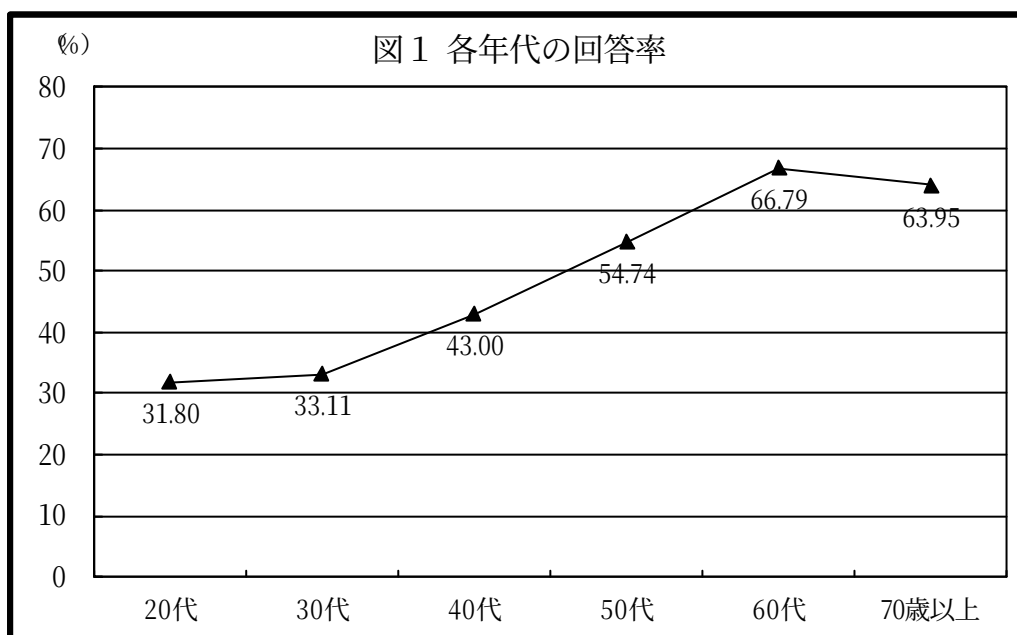


表2 回答者の年代別構成比

		20歳以上の 住民基本台帳人口 平成14年6月3日現在)		調査対象者		差(a)-(b)
総人口		人数	構成比 (a)	人数	構成比 (b) (抽出率)	
50,476		38,686	-	966	2.5%	-
年代別	20代	6,375	16.5%	104	10.8%	5.7%
	30代	7,937	20.5%	147	15.2%	5.3%
	40代	6,620	17.1%	129	13.4%	3.7%
	50代	7,388	19.1%	231	23.9%	-4.8%
	60代	5,458	14.1%	181	18.7%	-4.6%
	70歳以上	4,908	12.7%	149	15.4%	-2.7%
NA				25	2.6%	-2.6%
性別	住民投票の当日有権者					
	男性	18,480	48.7%	983	43.1%	5.6%
	女性	19,480	51.3%	1,014	54.3%	-3.0%
	NA			25	2.6%	-2.6%
	計	37,960	-	1,997	(抽出率) 2.5%	-

＊ また表3から明らかなように、「広島市との合併」に投票したと答えた人の割合は高齢層に行くほど高く、逆に20～40代の若年層では50%を割っている。

表3 年齢と投票行動のクロス集計

回答数)	投票に行った	行かなかった	全 体
20代	48	53	101
30代	105	42	147
40代	106	23	129
50代	191	37	228
60代	147	31	178
70歳以上	129	17	146
NA	20	5	25
全 体	746	208	954

%)	投票に行った	行かなかった
20代	47.5	52.5
30代	71.4	28.6
40代	82.2	17.8
50代	83.8	16.2
60代	82.6	17.4
70歳以上	88.4	11.6
NA	80.0	20.0
全 体	78.2	21.8

回答数)	合併	単独市制	町のまま	全 体	%)	合併	単独市制	町のまま
20代	25	12	14	51	20代	49.0	23.5	27.5
30代	47	29	28	104	30代	45.2	27.9	26.9
40代	53	32	22	107	40代	49.5	29.9	20.6
50代	123	35	34	192	50代	64.1	18.2	17.7
60代	97	33	17	147	60代	66.0	22.4	11.6
70歳以上	91	31	8	130	70歳以上	70.0	23.8	6.2
NA	11	7	2	20	NA	55.0	35.0	10.0
全 体	447	179	125	751	全 体	59.5	23.8	16.6

全体の集計結果を見ると、実際の投票結果と比べて「広島市との合併」に投じた人の割合がやや多くなっている。その最大の要因と言えるのは、

- ・ 若い層ほどアンケートへの回答率が低いこと
- ・ 若い層ほど「合併賛成」への投票割合も低いこと

の2点である。

今回の調査では、「住民投票に行った」との回答は746件あったが、住民投票の投票率（59.14%）から推定すると、転居・不着分を除いた調査対象者約1975名の中では、実際に投票に行った人は1170人前後と考えられる。したがって、回答をいただけなかった方の中にも、実際に投票に行った人が420人前後いると考えられ、その内訳としては、「合併賛成」「単独市」「町のまま」に投票した人が、それぞれ約140人ずつと推測される。

今回のような調査では、適切な方法で実施されたものであっても、集計結果には多少の「ひずみ」が出てしまうものである。とりわけ、これ以降の集計結果のほとんどは、年代別の回答状況によって大きな影響を受けている場合も十分にある。

したがって、表紙にも付記したように、調査結果はあくまでも「参考資料」にしかならず、今回の調査結果は住民投票の結果に取って代わるものでは決してない。

以上のことを念頭に置いたうえで、集計結果を見ていただきたい。